



No.94

市政の窓

「記念の年」

今年、30年続いた平成から新元号への変更や消費税増税、さらには東京オリンピック・パラリンピックを翌年に控え、社会的・経済的に大きな変化をもたらす年になるものと考えております。そのような幕開けも、多くの新年行事などに参加する中で、恒例行事・イベントも滞りなく開催されました。

寒さ厳しい曇天の下での「消防出初式」。後半は想定外の雨に見舞われましたが、一糸乱れぬ規律と行動は消防団の存在感を強く誇示されていました。

つ、どこで発生するかわからない火災や自然災害に対し、地域消防・防災のリーダーである消防団への市民の期待と信頼はますます高まってゆくことでしょう。翌日は「成人式」。好天に恵まれ、美しい晴れ着姿や凛々しいスーツ姿の新人300名が出席。同級生で構成する実行委員会主導の下、新成人代表の3名から将来に向けた堂々たる意見発表もあり、盛大に挙行されました。全国各地の荒れた成人式の様子をテレビ等で見るにつけ、私語一つ無く厳粛に挙行された本市の成人式の素晴らしさに改めて敬意を表し、その誇りを内外に知らしめていきたいと思えます。

さらには、スポーツの普及と健康づくりを目的に誰でも気軽に参加できる「第13回匝瑳市健康マラソン大会」。多くの方が参加され、吐く息も白く頬を紅く染め、元氣よく走りきり、一年の健康と活躍を誓ったことと思います。

このような中、私事ですが、卓話を依頼されて八日市場ロータリークラブにお邪魔した際、誕生月・入会月・結婚月が1月の会員の方々が祝福されている様子を拝見し、自身の結婚が1月であることを思い出しました。しかも金婚の年であり、家族の絆を深め健康に留意し、元号改まる記念の年に当たり、決意も新たに職務に邁進する覚悟であります。

匝瑳市長 太田安規

木積を歩く 木積の石塔

匝瑳探訪
153



木積の庚申塔

県道106号八日市場佐倉線沿いのバス停から木積区(豊栄地区)集落に入り、少し進むと二股に分かれる場所があり、そこに1基の石塔があります。

倒れかかっていたものを整えた、との知らせがあったのを見に行きました。木積の集落は、1300年代中ごろにまつられたと伝わる白山神社と龍頭寺を中心に成立したとされています。そこに江戸時代、日蓮という日蓮宗の高僧が出て、圓實寺も建てられました。

村内に真言宗と日蓮宗の二つの宗派が存在することから、信仰活動を伝える石塔も混在しています。

年代を追って地区内にある石塔を見ると、1690(元禄3)年の題目塔(日蓮宗)は「木積村真信一同」「真信」は信者の意味)が立て、1716(享保元)年の十五夜

塔には「村中善男女等」と刻まれ村をあげてまつりました。

今回土台が整えられた石塔は、1788(天明8)年の庚申塔で「木積村講中」とあり、庚申信仰の仲間が村の入り口に守り神の願いも込めて立てたのでしよう。

集落内にはこの他に、子安宮、浅間宮、天満宮など多くの石塔や石祠(石の宮)が見られます。

1843(天保14)年ごろの木積村家数は61軒で、本郷と青葉谷の2集落からなり、両集落を表す「両作(両谷)」

や「青葉谷」などと刻まれた石塔が見られ、それらに願いを掛けた人たちの歴史を今に伝えていきます。

(市文化財審議会委員・依知川雅一)

問 秘書課 広報広聴班 ☎73・0080

文芸コーナー

短歌

小泉泰清 推薦

朝な夕かわる気温に付き行けぬ
 老いし体を厭えど悲しむ
 農婦としひたすら生きて米寿となり
 心置きなく亡夫のもとえと
 亡き父の首にタオルし寝る姿
 理に適いしと夫はまねしぬ
 常世田の穏やかな日の初葉師
 持てなす人も笑顔絶やさず
 昭和から平成を無事過ぎゆきて
 新元号へ心を正す
 年末に申し餅届き玄関で
 話に夢中夕暮れ気づかず
 霜枯れて花僅かなり寒々と
 淋しかりけり冬の花壇は
 古谷由美子
 高橋百合子
 鈴木とも子
 依知川雅一
 川手 芳
 大木ヨシ子
 伊藤登美枝
 年賀状の文字は乱れてまきれなく
 友も老いたり昭和一桁
 芳香の溢れむばかりの水仙と
 千両ここだ友の賜ひぬ
 千葉駅の立食い蕎麦を父と食む
 遠き日ありき今よみがえる
 うからの居なくなりたる古里の
 曲りくねりし坂道しのぶ
 稲葉 雪子
 小川みさ子
 石田 秀子
 渡辺 重雄

川口城司 推薦

俳句

高安せい子 推薦

山巔を初日に染めて筑波立つ
 若菜摘み三種揃えて良しとせん
 三日の空制す榊や大手町
 絵馬に書く願ひは息災一つのみ
 若菜籠朝焼雲の下に置く
 数え日や総の曠野の果ての富士
 刈込のすみし榎塀に小鳥来る
 辞書を引き七草粥の支度する
 まいた豆我が家のルンバ食べつくし
 家の鬼居心地よいか出て行かぬ
 福は内翁ちゃん声が小さいよ
 老一人はり切ってまく鬼は外
 節分と聞けば不思議だ元氣出る
 声搾り福は内だよ鬼は外
 まく豆にお国どこぞと鬼が聞く
 大掃除逃げ回ってる綿ぼこり
 山巔 最上 峻
 江波戸広子
 椎名 晴江
 光瀬甲江子
 椿 和枝
 石田 健
 野仲 妙子
 須貝 玉枝
 江波戸京子
 鶴澤 澄子
 佐久間美智子
 常世田やす子
 岡田けい子
 鈴木ツネ子
 松野 敏昭
 石田 津
 川口城司 推薦

川柳

勝又康之 推薦

力作募集中

あて先：匝瑳市秘書課広報広聴班 〒289-2198 匝瑳市八日市場ハ793番地2
 ☎73・0080 FAX72・1114

図書館だより

図書館ホームページはコチラ
<https://www.library.sosa.chiba.jp>



●休館日…毎週月曜日 ●臨時休館日…5日(火)まで(蔵書点検のため)
 開八日市場図書館 ☎73-3746 (17時まで)

図書館資料は大切に

図書館の資料は、「みんなのもの」です。大切に扱ってください。誤って壊した本の修理は、図書館で行いますので申し出てください。汚損・破損・水濡れなどがひどく、貸し出しできない時は、弁償していただきます。紛失の場合は、同じ本を購入していただきます。また、DVDも、レンタル専用のDVDを購入しているため、市販品では代替できません。

蔵書点検とは

蔵書点検とは、お店でいう「棚卸

し」のことです。本一冊一冊を点検することにより、図書館を最適な状態に保ちます。

雑誌などを譲ります

6日(水)から、古くなった雑誌などを譲ります。図書館に登録のある人で、1人10冊までです。

2月のおはなし会

★八日市場図書館
 毎週土曜日(2日を除く)14時から約30分間
 ★のさか図書館
 第4土曜日10時30分から約30分間

おすすめの本

『THE LAST GIRL (ザラスト ガール)』

ナディア・ムラド、ジェナ・クラジェスキ / 著 吉井智津 / 訳 東洋館出版社

平和な暮らしはイスラム国に踏みこじられ、虐殺と収奪の日々が始まります。「このような体験をする女性性は、私で最後にするために一」。
 著者のナディア・ムラド氏は2018年ノーベル平和賞を受賞しました。

『わたしで最後にして ナチスの障害者虐殺と優生思想』

藤井克徳 / 著 合同出版

ナチスは、多くの障がい者をガス室で虐殺しました。「こんな死に方、わたしで最後にして」というガス室からのうめきは、いつになれば届くのでしょうか。